

第三者意見

本年のTDK CSRレポートは、TDKのCSRへの取り組みが中長期的視点から次の段階に歩を進めようとしていることをはっきりと語っている。

たとえば多様性。もちろんTDKは従来から多様性を重視してきた。新たに策定された行動指針にあらためて明確にされたことも寄与しているのであろう、今年のレポートは素晴らしい内容である。読者にはぜひ『成長戦略としての多様性の尊重』を考える」を熟読してほしい。性別や国籍という外部属性の違う人間をそろえることがダイバーシティなのではない。人はすべて違うのであり、「人が2人以上いればダイバーシティ」。そしてダイバーシティが成長に寄与するためには「全従業員がダイバーシティに適合した態度や行動をとる企業風土」が絶対に必要な前提になる。Kellerグローバル人事部部长は「ONE TDKの精神を確かなものにする」と正しく語っている。さらに、その文脈の上で「創業80周年を迎えるTDKの歩み」の記事および企業ビジョンVision2035を読んでみてほしい。意義がよりよく理解できるはずである。ビジョンの共有こそ多様性が正しく機能する前提である。そしてそのビジョンは社会の変化に歩調を合わせていなければならない。そのことをTDKは今年、実践したのである。

今年のレポートのもう一つ賞賛すべき点は多様性、非財務情報開示、サプライチェーンと多様な観点から外部の意見を取り入れていることである。サプライチェーンについては、取引先13社に改善指導を行うなど前進がみられる。そして、その次のステッ

プの一つがキャパシティ・ビルディングであり、和田氏が指摘するように今後のレポートへの盛り込みを期待したい。

次に環境面であるが、まずカーボンニュートラルの達成を高く評価したい。そしてレポートは、その達成の背景にある極めて重要な努力が甲府工場の取り組みの紹介の中で触れられている。「もともと多くの事業部が混在していた工場で、部門を越えた横断的なコミュニケーションが不可欠だったのです」。この指摘は環境に限らずCSR全般について当てはまる。部門を越えた横断的対話こそ、TDKのCSRを次の段階にもたらしした最も重要な鍵の一つであろう。

次に技術による世界への貢献について、「TDKが創る未来社会」の記事、とりわけメディカル・ヘルスケア分野への応用を興味深く読んだ。センシング技術が障がいを持つ人の動きをサポートし介護の負担を軽減し得る！技術の社会への潜在的インパクトの大きさに驚かされた。引き続き不断の技術開発が求められることは言うまでもない。そして加えてこのような技術が実際に社会で使われる上で制度的な整備がもし必要となるなら、ぜひルールメイキングに積極的に取り組んでほしい。社会的技術イノベーションとそのイノベーションへの「社会的需要」を結びつけるためには、時とルールの創出が必要であるからである。

TDKは自社のCSRの取り組みのどこに不足があるのかをよく認識された上で、Vision2035の実現にあたりTDKが付託された社会的責任を果たすことを進めていただきたい。



独立行政法人 経済産業研究所
コンサルティングフェロー
藤井 敏彦氏